



第275号
発行●グリーンコープ生協ふくおか 理事会
編集●広報委員会
福岡市博多区博多駅前1-5-1博多大通ビルディング3F
TEL●092-482-7770 (代)
ホームページ●http://www.greencoop-fukuoka.jp

4月号

グリーン・ウェーブ GREEN WAVE

グリーンコープのうねりを地域へ

今月号の主な内容

- 水俣・福岡展2023報告 2・3
- おやつで感じる至福の時間 4・5
- 子育てサークル&家計簿クラブ 6
- *GREEN WAVEに記載している商品情報は発行日現在のものです（金額は個別価格）
- 次回発行日は4月22日です。



坂本 寛子
理事長
グリーンコープ生協ふくおか

新型コロナウイルス感染症が
5類に移行し、おまつりやグ
リーンクラブとの交流会をはじ
め、元気に活動ができるよう
になりました。地域委員会でも、
一緒に試食を食べて「これ美味
しいね」「こっちもおすすめよ」
と楽しく会話ができるように
なっています。
組合員から要望が多くたが
りました。今後は、もつとグ
リーンコープらしい離乳食の力
&ショップでの取り扱いが始ま
りました。タログでの取り扱いが始
まります。お楽しみに。
気候危機・地球温暖化をとめ
たいと検討をおこなってきた
「2027カーボンニュートラ
ル」が、2023年度の臨時総
代会で可決されました。福岡西
支部は完全EV車化し、小倉北、
久留米支部にも導入がすすんで
います。私たち一人ひとりに何
ができるか考え、自分ができる
ことを寄せ合いながら、みどり
の地球をみどりのままで子ども
たちに手渡せるように、これか
らもグリーンコープ運動を一
緒に拡げていきましょう。

2023年の秋にお店とキープ
域の夢として検討がはじまり、
リーンコープらしい離乳食の力
&ショップでの取り扱いが始
まりました。今後は、もつとグ
リーンコープらしい離乳食の力
&ショップでの取り扱いが始
まります。お楽しみに。

2023年の秋にお店とキープ
域の夢として検討がはじまり、
リーンコープらしい離乳食の力
&ショップでの取り扱いが始
まりました。今後は、もつとグ
リーンコープらしい離乳食の力
&ショップでの取り扱いが始
まります。お楽しみに。

グリーンコープの 新年度に向けて

この紙面で紹介しているのは、
各地域独自の取り組みです。

2024年度も地域理事会を盛り上げます！

福岡地域

2023年度は永く組合員から要望が出ていた離乳食を開発しようと、離乳食検討プロジェクトチームを福岡地域の「夢つかたに」として据え、検討を重ねました。お店やキープ&ショップにはメーカー「地球畠」のものが先陣を切って既に登場しています。グリーンコープオリジナルの離乳食も間もなく登場予定です。

このように私たちの夢は、みんなで「かたち」にすることができますよ！あらためて皆さんからの提案をお待ちしています！

大坪 亜野子



福岡地域理事長
大坪 亜野子



福岡地域食べもの委員長
西本 梓

南地域

南地域は、産直青果の産地やメーカーが多くある地の利を生かして、メーカーを訪れて約束通り製造されているかを確かめる「商品の確さを確認する活動」を積極的におこなっています。

確かめてますます好きになった商品をチラシや店頭でアピールしているので、見かけたら是非試してみてください

ね！今年は地域理事会主催で、初のおまつりを開催予定です。たくさんの人と繋がりながら楽しく活動していきます。

どうぞ、よろしくお願いします。

永井 洋子



南地域理事長
永井 洋子



南地域食べもの委員長
小林 裕子

北九州地域

2024年度も楽しいことがいっぱいの北九州地域です。清水店がリニューアルし、素晴らしいお店に生まれ変わっています。お店でのイベントもたくさん開催予定です。体験田でおなじみの赤村との新しいプロジェクトがはじまります。初めてのプロジェクトなので、とてもワクワクしています。昨年大好評だった北九州地域の大きなおまつりを、秋に開催します。昨年よりもっとパワーアップしたおまつりにします！お楽しみに！ 安部 百々



北九州地域理事長
安部 百々



北九州地域食べもの委員長
片山 京子

中部地域

2023年度はおまつりや学習会など、対面でのイベントを積極的におこない、組合員、地域の方がた、生産者、メーカーと直接会って交流することの楽しさを久しぶりに満喫できました。2024年度も中部地域にはファイバーリサイクル運動の拠点となる「オンガベース」、千鳥・福間店が統合した「ふくつ店」がオープン予定です。これまで開設されたみんなの居場所や配食サービスセンターも、地域の方がたに大変喜ばれています。

2024年度もどうぞよろしくお願いいたします。

中村 晶子



中部地域理事長
中村 晶子



中部地域食べもの委員長
谷 亜矢子

新委員長に就任します

2023年度、福岡地域食べもの委員長と兼任し「離乳食検討プロジェクト委員会」を立ち上げました。組合員待望の離乳食の取り扱いの実現に向けて検討を重ね、まずはお店・キープ&ショップに離乳食コーナーを設置しました。2024年度はオリジナル離乳食開発を柱にもうすぐ登場する「大地からのおくりもの BabyGreen」(仮)を全力で盛り上げていきます！

離乳食開発プロジェクト委員長 吉次 真紀



読みやすく、わかりやすく、グリーンコープの最新情報を届けるGREEN WAVE。グリーンコープの様々な運動や、組合員活動の楽しさが伝わるよう、委員会運営や紙面作りをしていきます。

広報委員長 安達 由久子



ボランティアスタッフとして関わって

ワーカーズ・コレクティブ with 神崎 貴美

水俣展を初めて見たのは熊本で開催された「水俣病展2017」でした。グリーンコープくまもとの組合員事務局から展示説明を受け、展示鑑賞だけではわからない深い部分を知ることができました。その後、福岡で開催されることになり水俣へ訪問する機会を得て、特に展示説明のボランティアになりたいと強く思うようになりました。

4回の展示説明講習会では大変分厚い資料を渡され、まだ展示物も

ない中で、どのように話したら良いのかとても戸惑いました。しかし水俣病で亡くなられた方の遺影を飾っているブースに開催日前日に入り、みなさんの苦しみ、無念、二度と引き起こしてはならないという想いが幾重にも重なりました。

来場者に水俣の真実を少しでも知っていただき、一つでも教訓にしてほしいと願って取り組んだ水俣展でした。

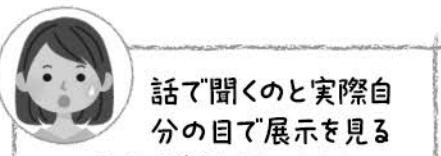
いのちとくらしの委員会で行きました

いのちとくらしの委員長 神保 薫

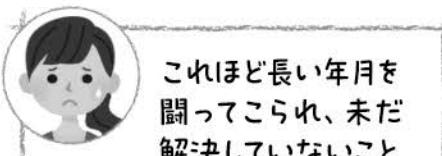
グリーンコープの食べもの運動の原点の一つである熊本水俣病事件を知るために、いのちとくらしの委員会で水俣・福岡展2023へ行きました。

小学校で勉強した「昔の話」「歴史上の出来事」が現在も裁判は続いている、人びとの肉体的・精神的苦しみは今なお続いていることに驚き、胸を痛めました。人の命よりも経済発展を優先し、生命や食がないがしろにしたこと、忘れてはならないし繰り返してはいけない。委員の心に「水俣病は終わっていない」という言葉が突き刺さり、それが社会のあり方について考えることができました。

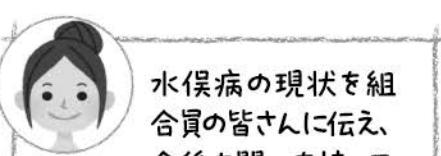
委員感想



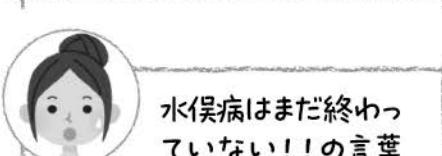
話で聞くのと実際に自分の目で展示を見るのは全く違うと思いました。
(宗像支部)



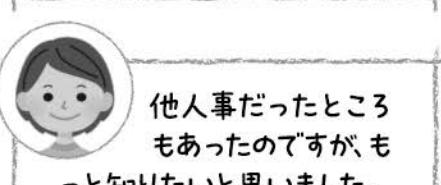
これほど長い年月を聞いてこられ、未だ解決していないことに驚きしかありませんでした。
(筑紫支部)



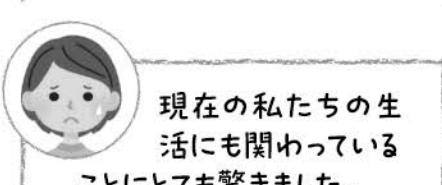
水俣病の現状を組合員の皆さんに伝え、今後も関心を持って見守りたいと思いました。
(福岡西支部)



水俣病はまだ終わっていない!!の言葉にハッとしたしました。
(福岡東支部)



他人事だったところもあったのですが、もっと知りたいと思いました。
(福岡なか支部)



現在の私たちの生活にも関わっていることについて驚きました。
(久留米支部)

支部で見学に行きました

中遠支部 支部常任委員 清原 孝子

不知火海は住民にとって命の海です。魚介類が豊富で住民は漁業で暮らしていました。その海にチツコが36年間、工場から有害物質メチル水銀を排出し続けました。百間排水溝付近には4mのヘドロが堆積していたそうです。

6年前の熊本に続き、水俣・福岡展を見学しました。パネル資料や写真、ビデオを見て、被害の様子がわかり心が痛みました。

チツコと国の人からの言わぬ差別を受け、漁民たちは自分たちの生活を取り戻したい、海の回復を願い訴訟しました。何十年も闘いチツコは謝罪し、補償金も一部出ましたが、今も裁判は終わっていません。会場に小学生や高校生が見学に来ていました。展示物を見て何かを感じてくれたはず! 将来大人になって救うべきは誰なのか、正しい見極めのできる人に成長してほしいと思いました。

折尾若松支部 支部理事長 廣幡 晶子

支部の活動組合員で、水俣・福岡展2023に行きました。写真展示が数多くあり、水俣病患者の表情を捉えた写真や笑顔の家族写真などがありました。展示の説明を受けた参加者からは「水俣病は学校の授業でしか習ったことがなく、こんな現実だったとは知らなかった。詳しく知ることができてよかったです」、「悲しくて見ていることがつらいくらいだった」などの感想が出ました。

その後の意見交換の中で、水俣病の加害者は企業だけでなく、経済成長や便利さを求める人びとも加害者なのではないか、という話になりました。

今の社会においても水俣と同じようなことが無くなっています。今回の学習が様々な社会問題を考えるきっかけになりました。

水俣・福岡展が10年ぶりに開催されました。

全国では熊本開催が最後で6年ぶりです。久しぶりの開催で、ボランティアにも力が入りました。水俣から受けた衝撃は言うまでもありません。ホールで開催される講演会などの企画や展示にも沢山の方に足を運んでいただきました。特に外国人旅行者が多くみられました。

水俣を忘れないためにも活動を続けていきます。

水俣病とは

日本の四大公害病（水俣病・新潟水俣病・イタイタイ病・四日市ぜんそく）のひとつで、熊本県水俣市のチツコ株という化学メーカーの工場排水に含まれていたメチル水銀の経口中毒による中枢神経疾患です。水俣湾の魚介類が汚染され、知らずに食べた人びとが中枢神経を侵され、亡くなっていました。現在推定20万人という多くの被害者が慢性症状に苦しめ、未だに解決していません。

水俣フォーラム

認定NPO法人。1996年より膨大な文献や映像、実物の資料によって構成された「水俣展」（熊本で開催の場合は「水俣病展」）を全国各地で、開催地の団体と共に開催している。



水俣死民

13,602人の参加体験が成果

水俣・福岡展2023を開催して

今回の全参加者は13,602人を数えました。目標の20,000人には遠く至らなかったものの、全26回の水俣展中、初開催の1996年東京展30,083人に次ぐ参加者を得て、24年ぶりに沖縄展の13,081人を超えたのは、大きなことでした。残った直接収支の赤字380万円も、補填寄付のお願いに応えてくれた350人を超す方のお陰で埋めることができました。もともと水俣フォーラムにとっての成果は収益ではありません。参加してくれた方々の感想やボランティアとして体験してもらったことが、何よりの成果と考えるのは水俣病を繰り返さないための活動であるからです。現役の危険物質である水俣病の原因物質メチル水銀から最も守られるべき「生む性」の方々を主なメンバーとするグリーンコープふくおかの発案による開催であったことも後々まで銘記すべきことです。ありがとうございました。



水俣フォーラム理事長
宍戸 悠太



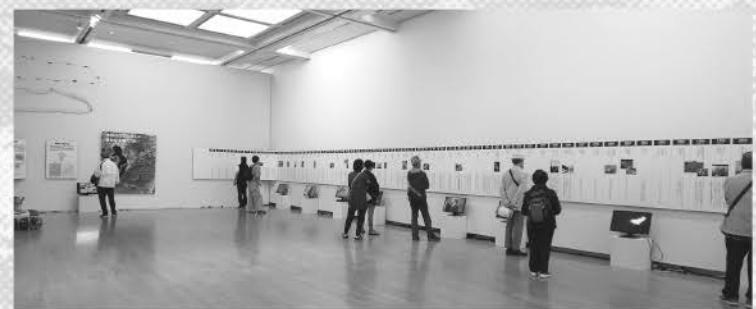
博多駅前でも「水俣・福岡展2023」をアピールしました。
こちらのポスターと声掛けで、足を運んだ方もいました。

これからもいのちを一番に考えていく

グリーンコープ生協ふくおか理事長 坂本 寛子

水俣・福岡展2020はコロナの影響を受けて断念した過去があります。2023年度、3年越しに福岡の地で「水俣・福岡展」が開催されました。理事たちも入れ替わり、改めて水俣展を開催する意義を知ることから始め、水俣の地を訪れ今の水俣の様子を見て、患者さんや支援者から直接お話を聞きました。自分の言葉で来場者に伝えたい、水俣・福岡展に関わりたいと感じた多くの組合員が積極的にボランティアとして携わることができました。

グリーンコープは、水俣病などの食品公害から家族や子どもたちを守りたい、安心安全な食べものを家族に食べさせたいと願うお母さんたちが作った生協です。これからもいのちを一番に考えていくと思いました。



水俣・福岡展2023報告

10月7日(土)
11月14日(火)

(福岡アジア美術館)

主催
水俣フォーラム



子育ても!!

家計の見直しも!!

仲間と一緒に楽しもう!



子育てサークル

福岡西支部

子育てサークル 元気クラブ 報告

福岡西支部では毎年20人前後が集まるサークルが立ち上がります。住んでいる場所や年齢は違っても子育てをしているという共通点があるので、初回から会話も弾んでいます♪ 時には支部理事会メンバーから商品や地域委員会のアピールをすることも! グリーンコープを知っていたら機会にもつながっています。

福岡西支部 前支部理事長
西本 梓



子育てサークルでは、ママたちがやりたい企画を主体的に決めていくので、子どもたちに喜んでもらえるようにメンバーで企画を考えるのですが、活動中に子どもたちの楽しそうな雰囲気を見られると達成感でいっぱいになります。講師をお呼びして子育てに関するお話を聞いたり、子どもたちと一緒に工作をしたり、人形劇を見てとても充実した時間を過ごしました。子どもの年齢が近いので、子育ての悩みを話し合う息抜きの場にもなっています。

サークルリーダー 栗山 春花



▲福岡西支部との共催で母乳育児コンサルタントの平田喜代美先生をお呼びして託児付きの講演会を行いました。

「子育てサークルの仲間募集!」

子育てに悩んでいるお母さんはいませんか? グリーンコープではそのようなお母さんたちのレスパイト(息抜き)の場、情報交換の場、子どもたちが健やかに育つ場が必要であると考え「子育てサークル」を立ち上げ、活動しています。

〈対象〉グリーンコープの組合員の親子

(幼稚園に行く前の0才~3才くらいのお子さん)

〈会費〉無料(活動費には助成があります)

〈内容〉・月に1~2回集まり、親子で遊び、季節の行事・学習会・料理会など、年度始めに、みんなで希望を出し合って楽しい企画を作ります。
・サークルの運営はワーカーズがサポートします。

※子育てサークル開催支部には、案内チラシが配布されます。
配布チラシでお申込みください。



らくらく家計簿クラブ&シニア家計簿クラブ

サークル員大募集!!

5月に募集チラシを配布予定です。

家計簿が続かない、お金が貯まらない、教育費が不安、老後が心配……などお金に不安がある方、家計簿をつけて家計管理をしたい方におすすめ!
税金や年金、保険、教育費、相続、節約術、やりくり術など、仲間と一緒に学びませんか?



*らくらく家計簿クラブ

- ・子育て世代が対象。
- ・活動期間は最長3年間。



これからの人生に、どれだけのお金がかかるかがわかりました。



月々の収支を把握することで、我が家への弱点や問題点に気付けました。

*シニア家計簿クラブ

- ・セカンドライフや老後について考えている方や子育てが落ち着いた方が対象。
- ・活動期間は1年間。



老後の不安がいくらか解消できました。



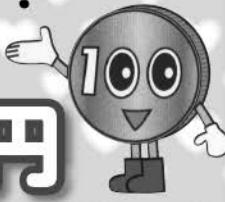
年金生活の必要な出費、大きな出費を知ることができました。

「家計簿クラブはこんなところ……」

- ・家計簿を見せ合うことやチェックはありません。
- ・サークル内で集まる日時、場所、頻度(例:月に1回)を決めます。
- ・年3~4回、ファイナンシャルプランナーによるお金の勉強会を実施(託児OK)。
- ・開催方法は対面かオンラインです。
- ・サークル運営は、FP円縁(くらしの中のお金にまつわる制度や情報を届けるワーカーズ)がサポートします。



助けあい支えあいの 地域づくりをめざして! 夢がカタチになる100円 福祉活動組合員基金助成報告会 《2023年度》



私たち組合員が毎月出し合っている福祉活動組合員基金(100円基金)が、どのように地域福祉に活かされているかを知る助成報告会を、地域基金運用委員会で開催しました。

2023年度に出会った助成団体の活動報告と交流を通じて、地域福祉の広がりや心温まる活動を共有し、私たちの100円の大切さを実感しました。

今回、助成報告会の様子についてお知らせします。

助成金は、グリーンコープの福祉活動や地域で福祉の活動をされている団体で有意義に活用されます。

<役職名は開催当時のものです>

北九州地域

1月22日 (月)
(ウェルとばた)

福祉活動組合員基金(100円基金) みんなの100円ありがとう報告会

17の助成団体、100人を超す参加があり、盛況な報告会となりました。不登校、子ども食堂、子育て、介護予防、障がい者アート、高次脳機能障がい、化学物質過敏症など多岐にわたり豊かな活動があこなわれていることを知りました。交流の時間には、組合員が助成団体を囲み、さまざまな質問に、丁寧にお応えいただき、温かい時間となりました。熱心にメモを取る方、連絡先を交換する方など、必要な情報交換が直接できるのもこの報告会の良さだと感じました。

(小倉南支部 広報委員 平野 信子)



みなさんができるみななり
の福祉活動を続けて下さい♥

元気くんから、助成団体と組合員へ
エールが送られました

中部 地域

1月23日 (火)
(宗像ユリックス)

助成団体からの報告&交流会 知っていますか?あなたの100円の行方

4年ぶりにリアル開催された報告&交流会には、2023年度中部で面談した20団体のうち17団体が参加されました。福祉委員からの福祉活動組合員基金についての歌と手話の披露でスタートした後は、各団体から日々の熱心な活動の様子を報告していただきました。交流会では団体と参加者の質疑応答や意見交換が活発におこなわれ、時間が足りないくらい盛り上がり、大変有意義な時間となりました。沢山の参加者より「楽しかった」「100円基金の意義が理解できた」「来てよかった」との感想が寄せられました。

(中部地域理事長 中村 晶子)



100円基金の歌と手話で
基金の良さをアピール

福岡 地域

1月22日 (月)
(オンライン)

みなさん100円をありがとう ～助成団体からの報告&交流会～

福岡地域は1月22日月曜日、本部会議室をメイン会場としてオンライン形式で開催しました。当日報告された団体の方がたからは、交通費など発生する経費のことで悩んでいてグリーンコープに助成申請した、おかげで活動が整ってきており、など基金の具体的な使途と共にそれぞれの豊かな活動の様子を報告していただきました。団体の方同士多くの刺激を受けた、基金の活用の仕方がとても素晴らしい、など感想もいただきました。一団体の持ち時間が短いなど、課題もありますが、私たちが拠出している100円が貴重な取り組みに活かされていることを知るとても良い場となりました。

(福岡地域理事長 大坪 亜野子)



南 地域

1月29日 (月)
(オンライン)

私たちが拠出している100円の使い道を知ろう! ～100円基金オンライン助成報告会&交流会～

2023年度助成した18団体のうち15団体から、活動の様子と助成金の使途を報告いただきました。参加者から「毎月の100円がこのような形で生かされていることを嬉しく思う」「自分たちが住む地域で熱い思いで活動をしている人がいることに感動した」などの感想が出ました。質疑応答では団体同士のやりとりもあり、横のつながりが生まれていました。福祉委員会作成の動画もグリーンコープの福祉や100円基金がわかりやすかったと好評でした。

(南地域理事長 永井 洋子)

